

動物

の

診察室

から

○ 70 ○

1月の末に、他院の先生が、椎間板ヘルニアで後ろ足が麻痺したタックフロントをご紹介します。れました。

その子の名前は「ナナちゃん」。5歳の女の子で、とてもかわいい子です。2日前に急に立てなくなつたとのことで、診察をすると、後ろ足は完全麻痺ですが、まだ痛覚は残っていました。

腰部の椎間板ヘルニア

お父さん、大好き！

経過良好家族も笑顔に



肝臓の値も良くなったナナちゃん

またちも手術を希望されましたので、次の日にPSSの手術を行いました。

ナナちゃんのシャント

血管はとも太く、経過も長いため、血管を閉じると

も持病があり、ナナがいけない私の具合も悪くなってきました」と話されました。ナナちゃんはお父さまが大好きで、ご飯

ニアの手術だけ行い、翌日飼い主さまにナナちゃんの病状を説明しました、後はシャント血管をた、後はシャント血管をどうするかです。

4日目に面会にこられた時には、ナナちゃん

ヘルニアの経過は順調でしたが、ナナちゃんのお父さまは元気がなく、「ナナが家にいなくなり1日たが、奇形血管を閉じる

では、痛覚が残っているかどうかがとても重要で、痛覚が残っているうちに手術を行うと、ほとんどの例で歩けるようになります。しかし、痛覚がなくなった場合には2日以内に手術を行わないと、歩けなくなる可能性が高いのです。ナナちゃんにはすぐ画像検査が入り、手術を行うのですが、その日は椎間板ヘルニアの手術だけ行い、翌日飼い主さまにナナちゃんの病状を説明しました、後はシャント血管をた、後はシャント血管をどうするかです。

